

第2学年 生活科学習指導案

1 単元名「モルモットをそだてよう」

2 単元について

(1) 児童の実態

本校は、緑に囲まれた落ち着いた環境にあり、校内にはうさぎや魚、モルモットなどが飼育されている。そのため、児童は生きものと接する機会に恵まれ、生活科をはじめとする様々な教育活動において生きものとかかわることができている。

これまで児童は、1年生の遠足の時に、ウサギやモルモットを抱っこする等して、小動物と親しむ経験をしている。教室で飼育しているモルモットは、1年生の3学期に2年生から引き継いだもので、抱っこの仕方やエサのあげ方、ゲージ内の掃除の仕方など当時の2年生に教えてもらったことを生かしながら、これまで飼育を続けてきた。

しかし今年1月の半ばに、4匹いたモルモットのうち1匹が亡くなった。突然の死に直面し、児童の中には動揺、悲しみが広がっていった。いることが当たり前のように思っていたモルモットにもそれぞれ命があり、改めてその大切さを実感する貴重な機会になった。

1匹亡くなったことによって、クラスごとに1匹ずつ飼っていたモルモットを、従来通り飼育することができなくなった。そこで、3匹を順番にクラスに回してお世話をするシステムに変更した。当番の児童は登校すると、掃除や餌の補充などをみんなで協力して行い、終了後は、当番日誌に健康状態を記入し、活動の様子を振り返っている。

「先生、お水たくさん飲んでるよ。」「うんちの色がいつもと違うよ。」などと少しの変化も見逃さず意欲的に世話をする児童もいれば、モルモットになかなか触れることができず、飼育活動も友達任せの児童もいる。しかし、繰り返し活動を続ける中で、少しずつ心を寄せ、愛情を持って世話をする様子が見られるようになってきた。

(2) 単元の構想

本単元は、学習指導要領の内容(7)

動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。
--

に基づいて設定した。

この単元では、モルモットの飼育を通して、動物の変化や成長の様子に関心をもち、動物の生命や成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、心を寄せて世話をすることができるようにすることを目指している。

小単元「3匹きのモルモットとなかよくなるよう」では、常時活動で行っている飼育活動を振り返ったり、獣医さんや3年生にインタビューをしたりする活動を通して、3匹それぞれの特徴を調べ、その後3匹それぞれが喜ぶようなお世話を実践していく。本単元は、日々の飼育活動を土台に展開されていく。そのため、毎日の活動の中で児童が何気なく口にしてしている思いや疑問を教師が拾い上げ、『3匹それぞれのモルモットが喜ぶお世話をしてあげたい。』と児童の気持ちが高まっていくような声かけをしていくことが大切である。

この活動を通して、モルモットの新たな一面を発見し、モルモットも自分たちと同じように生命をもって成長していることを改めて実感させ、生き物を大切にすることをさらに深めさせたい。また、生活の一部ようになったモルモットとの関わりを振り返るとともに、今日までモルモットの世話をしっかり行うことができた自分たちの成長に気付かせたい。

3 児童の意識の流れ

3びきのモルモットを迎える準備をしよう

必要な道具はなんだろう。

早く会いたいな。

モルモットを迎える会をしよう。

お世話の仕方がわかったよ。大切に育てよう。

これからもモルモットのお世話をがんばろう。

だっこが難しいな。

お風呂は入らなくていいの。

好きなえさはなんだろう？

毛が抜けるな。大丈夫かな。

もっと、モルモットのことを知りたいな。

もっと仲良くなるために、それぞれのモルモットのことを調べよう。

本で調べてみよう。

獣医さんや3年生に聞いてみよう。

みんなはどんなことを調べたのかな。

モルモットともっとなかよくなろう。

おしりを持ってだっこするといいよ。

ブラッシングをするといいよ。

濡れたままだとよくないみたいだよ。

モルモットのことをたくさんわかったよ。もっと仲良くなれそうだな。

3びきのモルモットとなかよくなろう⑦

1年生にモルモットのことを伝えよう

どんなことを、どうやって伝えようかな。

モルモットのお世話の仕方を伝えたいな。

3匹が好きな食べ物や、だっこの仕方を伝えたいな。

気を付けてほしいこともあるよ。

1年生がすぐにわかるように教えてあげたいな。どんなふうに教えてあげようかな。

1年生にモルモットのことを伝えよう⑦

1年生にモルモットのお世話の仕方を実際に教えよう

モルモットを大切に育てて欲しいな。

毎日のお世話をしつかりやったよ。

モルモットはしゃべれないけど、気持ちは伝わるんだよ。

モルモットも、私たちと同じ生きているんだ。

1年生にも大切に育ててほしいな。

1年生にお世話の仕方を教えてあげよう②

[事後指導]

- ・1年生に掃除の仕方、えさのやり方等、毎朝1班ずつ、2年生の教室に来てもらい、一緒に世話をする。(各班2回ずつ)

学習課題 児童の考え 児童のつぶやき 児童の意識

4 研究の視点

研究主題

自分の考えをもち、共に学び合う子どもの育成

身近な「ひと・もの・こと」にかかわり合いながら、自己の生き方を考える子をめざして

研究の視点1 対象への思いを深める単元計画の工夫

手立て① 繰り返しモルモットとのかかわる場を設定する

班毎(3~4人)の輪番制で常時活動する場面を位置付け、モルモットと繰り返しかかわることができるようにする。世話を通してモルモットに次第に心を寄せ、成長や小さな変化にも気付くことができるようにしたい。こうした活動を通して、一層モルモットへの思いを深めることができるようになると思う。

手立て② かかわり合う力を高めるための指導の工夫

毎日朝の会でモルモットの情報交換の場を設けることで、飼育活動を日常生活に位置づける。一人ひとりの子どもの思いや気付きを情報交換する時間や場を確保し、活動や体験をその場限りで終わらせるのではなく、言葉を中心としたコミュニケーション活動を通して、友達や身近な人と気付きを認めあったり、振り返ってとらえ直したりすることができるようにすることでより一層モルモットへの思いを深めると考えていきたい。

研究の視点2 子どもが主体的に学ぶ指導・評価の工夫

手立て③ 伝え合い交流する活動の充実を図る

モルモット掲示板を作り、いつでも気付いたことを貼ったり、友達の気付いたことを読んだりし情報交換できる場を設ける。活動や体験を振り返ったり、自分なりに整理したり、気付きを友達や身近な人と伝え合ったりすることができるよう、伝え合うための場を工夫することで、自分の思いを発信し、それを受け取った人からの反応を得ることができ、より主体的な学びとなるようにしたい。

手立て④ 他学年と交流する場面を設ける

今までお世話をしていた3年生に、3匹それぞれの特徴を聞いたりお世話のコツを聞いたりする場面を設ける。そこでは、昨年の2年生がどんな思いで1年生にモルモットを引き継いだか、また、引き継いだ後にどんな気持ちになったか等を聞くことにより、モルモットとより一層深くかかわりたいという思いがもてるようにする。また、2学期には、仲町小学校の伝統として1年生にモルモットを引き継いでいく場面を位置付け、より主体的にかかわっていかうとする思いを高めたい。

手立て⑤ 指導体制を整える

地域の獣医さんからモルモットの飼育に関する助言を受けることができるようにする。そして、獣医さんに疑問に思ったことを相談することで、それぞれのモルモットの特徴を知り、安心してじっくりモルモットにかかわり、主体的に学ぶことができるようにしたい。

手立て⑥ 子どもの気付きの見取りと支援を工夫する

教師がきめ細かく確かな見取りをし、子どもの気付きの内容や方法、心情のよさ・意味などを価値付けることが重要な支援の要素となる。子どもは自分の気付きのすばらしさを自覚するとともに、それを聞いている子どもたちにもそのよさを伝え、次の活動への意欲につなげたい。また、教師自身が子どもの気付きを予想し、どこでどのような働きかけをするのか、その際の言葉かけを意図的に行い支援していく。

5 単元の目標

モルモットの飼育を通して、動物の変化や成長の様子に関心をもち、動物の生命や成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にできる。

6 単元の評価規準

	生活科への関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
単元の 評価規準	モルモットの変化や成長に関心をもち、親しんだり、大切にしたりしようとしている。	モルモットとの接し方や世話の仕方を工夫するとともに、それを表現することができる。	モルモットの世話の仕方が分かり、動物も自分たちと同じように生命があることに気付いている。
小単元の 評価規準	1 ① モルモットに親しみや愛着をもって関わろうとしている。	① モルモットを迎えるためにはどうしたらよいかを考えている。	
	2 ② モルモットが喜ぶ世話の仕方を考えようとしている。	① モルモットが喜ぶことを考え、工夫して世話をしている。	① モルモットの特徴や成長の様子、関わることの楽しさに気付いている。
	3 ③ モルモットともっとなかよくなるには、どうしたらよいかを考えようとしている。	④ モルモットとの関わりを振り返り、もっとモルモットとなかよくなるにはどうしたらよいかを考え、工夫している。	⑤ モルモットが喜ぶ世話の仕方に気付き、モルモットも自分たちと同じように命をもち、成長していくことに気付いている。

(1) 目標

三匹のモルモットともっと仲良くなるためにどうしたらよいかを考え、大切に世話をしようとする。

(2) 評価規準

生活科への関心・意欲・意識	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
モルモットともっとなかよくなるために、気付いたことや調べたことを進んで伝えようとしている。	モルモットともっとなかよくなるためにどうしたらよいか考え、それを表現している。	モルモットが自分たちと同じように、生命があって生きていることに気付き、大切に世話をしなければいけないことに気付いている。

(3) 展開

児童の活動・意識	評価規準 (☆) 留意点 (○) 支援 (◎)	準備	時間
1 今までの常時活動を振り返る。	○常時活動の様子を写真に撮っておき、提示することでお世話の様子やモルモットの様子について振り返ることができるようにする。	・常時活動の様子や三匹のモルモットの	3
2 本時の活動を確認する。	モルモットともっとなかよくなろう！		2
3 3匹のモルモットについてこれまでに気付いたことを、グループで伝え合う。	○モルモットともっと仲良くなるためにはどうしたらよいか考え、伝え合うようにする。 ◎これまでの飼育活動を通して得た気付きを引き出すことができる言葉かけを行うようにする。 ☆モルモットともっとなかよくなるために、気付いたことや調べたことを進んで伝えようとしている。 (関心・意欲・態度) 発 観	・前時までにそれぞれが調べたカード	10
4 モルモットの特徴を比較し、もっと仲良くなるためにどうしたらよいか考える。	◎3匹のモルモットの特徴を話し合うことを通して、これまでじっくりモルモットとかかわりながら世話をすることができていたことを称賛し、明日からの活動への意欲を高めるようにする。 ☆モルモットともっと仲良くなるためにどうしたらよいか考え、それを表現している。 (思考・表現) 作 発 観 行 ☆モルモットが自分たちと同じように、生命があって生きていることに気付き、大切に世話をしなければいけないことに気付いている。 (気付き) 発	・モルモット (モルモンちゃん)	25
5 振り返りをする。		・振り返りカード	5

（1）目標

三匹のモルモットともっと仲良くなるためにどうしたらよいかを考え、大切に世話をしようとする。

（2）評価規準

生活科への関心・意欲・意識	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
モルモットともっとなかよくなるために、気付いたことや調べたことを進んで伝えようとしている。	モルモットともっとなかよくなるためにどうしたらよいか考え、それを表現している。	モルモットが自分たちと同じように、生命があって生きていることに気付き、大切に世話をしなければいけないことに気付いている。

（3）展開

児童の活動・意識	評価規準（☆） 留意点（○） 支援（◎）	準備	時間
1 今までの常時活動を振り返る。	○常時活動の様子を写真に撮っておき、提示することでお世話の様子やモルモットの様子について振り返ることができるようにする。	・常時活動の様子や三匹のモルモットの写真	3
2 本時の活動を確認する。	モルモットともっとなかよくなろう！		2
3 3匹のモルモットについてこれまでに気付いたことを、グループで伝え合う。	○モルモットともっと仲良くなるためにはどうしたらよいか考え、伝え合うようにする。 ◎これまでの飼育活動を通して得た気付きを引き出すことができる言葉かけを行うようにする。 ☆モルモットともっとなかよくなるために、気付いたことや調べたことを進んで伝えようとしている。 (関心・意欲・態度) 発 観	・前時までにそれぞれが調べたカード	10
4 モルモットの特徴を比較し、もっと仲良くなるためにどうしたらよいか考える。	◎3匹のモルモットの特徴を話し合うことを通して、これまでじっくりモルモットとかかわりながら世話をすることができていたことを称賛し、明日からの活動への意欲を高めるようにする。 ☆モルモットともっと仲良くなるためにどうしたらよいか考え、それを表現している。 (思考・表現) 作 発 観 行 ☆モルモットが自分たちと同じように、生命があって生きていることに気付き、大切に世話をしなければいけないことに気付いている。 (気付き) 発	・モルモット(チョコちゃん)	25
5 振り返りをする。		・振り返りカード	5